

京都市環境審議会
第1回 環境基本計画改定検討部会

日時 平成27年5月7日(木) 午前10時～11時30分

場所 京都市役所寺町第1会議室

出席者 小幡部会長, 池垣委員, 板倉委員, 小山委員, 村瀬委員

欠席者 大久保委員, 奥原委員, 深尾委員

1 開会

挨拶 環境政策局環境企画部長

2 議題

(1) 環境基本計画改定検討部会の進め方について

- ・事務局(室野環境総務課担当係長)から, 資料1に基づき説明

(小幡部会長) 進め方について意見はあるか。

(一同) 異議なし。

(2) 計画改定の基本的な考え方・方向性について

- ・事務局(室野環境総務課担当係長)から資料2, 資料3に基づき説明

(小幡部会長) 環境像については, 「はばたけ未来へ! 京プラン」というキーワードが現行計画にあり, それを踏襲する。「地球環境に暮らしが豊かに調和する『環境共生と低炭素のまち・京都』」というのが挙げられている。

また, 京都市の環境分野の分野別計画の一覧が「別紙」の一番下に書かれている。これらの分野別計画に掲げられている目標を全体として統合し, 黒い矢印に記載されている取組を進めていくことになる。そのため, 現行の計画の中で様々なことを勘案しなければならないというのが, その左側のところである。今説明いただいたことはこのようにまとめられる。

一方で, 評価指標に主観的な評価項目を入れるのか, 現行の82の評価項目をどうコンパクトにするのか, 施策体系や5つの長期的目標をどのようにするかについては, 次回以降の検討部会に提示される予定ということなので, 今日のところはこれらの大きな方向性について議論したらよいと思う。その他, このようなことが抜けているというところがあれば御意見を伺いたい。

また, 今回の改定に当たっては, 骨太でコンパクトにするという方針が示されている。今の計画は100ページぐらいあり, 今回は何ページにするかなども伺いたい。

長期的目標は5つあるが、このあたりはどうか。

(小山委員) 市民に親しみやすい計画にするという方針が提示されているが、この計画は誰のための計画なのか、というのを確認したい。

市民が自分の生活と直接関わりがあるものとして見るのは、下位のそれぞれの計画、あるいはそれに基づいて定められるルール等になると思うし、事業者の場合も、実際に新しいことをするとなった時に考えなければならないことは、下位規定によって決められるものであると思う。

この計画は、市全体の上位目標に沿って策定されるものだとすると、親しみやすくするという努力を追求しなければいけないものか。大まかな方針を示すということに重点を置くのであれば、詳細については下位規定で定めればよく、もっとコンパクトにはなると思う。

親しみやすさの部分を追及しようとするなら、詳細かつ丁寧でかみ砕いたものになければならない。この計画によって行動を制御される対象は誰なのかを確認したい。(小幡部会長) これは行政計画になると思う。基本計画は長期的な目標や個別の大綱を並べたものになるが、市の行政計画で分かりやすくするというのは、市が計画を策定するという風に見るのか、それとも市民の意見を適切に反映させていくのか、ということである。

環境基本計画やそれぞれの下位計画は内容が重複しているところもあり、分かりやすくというのであれば、そのあたりを整理したらどうかという提案である。「分かりやすく」というのはどのようなものをイメージすればいいのか、お伺いできるか。

(三宅環境企画部長) 部会長から「別紙」で紹介していただいたように、京都市の環境分野を含むあらゆる行政分野の基本計画は、「はばたけ未来へ！ 京プラン」として平成23年に策定した。徹底した市民参加のもとで、分野ごとに部会を設けていただき、かなりの頻度で市民に直接参加していただいて練り上げたものである。いわばこれは目指すべき京都市の未来ということで、考え方としては抽象的なものになっている。

一方で、それぞれの国の単独法に基づく行政計画として、分野別の計画がある。したがって、小山委員御指摘のように、市民や事業者の生活、事業活動に直接関わる内容は、分野別計画に盛り込まれている。

それらの中間に位置するものが環境基本計画になっている。それであるがゆえに、非常に馴染みのないものになっており、なかなか周知できていないが、事務局としては、どういう方向で市民のみなさんに暮らしていただくのがよいのか、事業者の方々はどういったことに配慮して事業活動を行っていただければよいのかを分野別計画で細かく定める一歩手前の部分として定めることができないかと考えていることから、手に取ってもらいやすい、聞いて分かる、読んで分かる、イメージができる内容にできないかと考えている。

よって、対象はあくまで市民、事業者の皆様であり、その方々に目指していく方向

を示すことができないかと考えている。具体的なページ数については、長期的目標を今の5つでいいのか等を議論し、また、分野別計画との重複を避けながら基本施策を検討していく中で、定まってくるものであると思っている。

(小幡部会長) 環境基本計画は、京プランと分野別計画の間に位置し、分野別計画を束ねたようなものである。また、京プランから環境の部分を降ろしてきた、市民にとっても分かりやすいものにしたいということである。

また、骨太でコンパクトなものにするということだが、どのような性格にするか。現行の環境基本計画の目標が「温暖化」や「生活環境の保全」など5つあり、京プランでは「環境にやさしい都市づくり」、「再生可能エネルギーの拡大、ごみ減量」、「低炭素時代のものづくり産業の創出」がある。各分野別計画でも、「温暖化」や「循環型」とあり、京プランと似通ったものがある。長期目標をどうするかというのは次回提示されるということなので、今5つある目標を増やすのか減らすのか、意見があれば伺いたい。

(村瀬委員) あまり難しいことは市民には理解できない。市民にも普及を図るなら、親しみやすい言葉が必要であると思う。市民がこれだったらできるということを重点的に記載して、市民が馴染みやすい内容のものにするのがよいと思う。

(板倉委員) ワークショップについて、こういう活動に参加するのは、環境問題に関心がある人である。子どもなら、関心のある親が市民しんぶんなどを見て、親に勧められて参加することが多いと思う。場所とコーディネーターが誰かということが大切である。また、夏休みの宿題になる等、インセンティブがないと来てもらえないかと思う。京都はNPOで活動しているところがたくさんある。例えば、エコセンでも色々実施しており、場所もあるし、人材もいる。こういった点も考慮して検討する必要がある。

(三宅部長) 3月の審議会の際、パブリックコメント以外に市民聴取の場を設けることが重要ではないかという御指摘をいただいた。ただ、スケジュールを考えるとそう何回も行うことはできない。今回の資料はたたき台として書かせていただいたものであり、部会の皆様がこれでよいということであれば、今後、具体化に向けて進めさせていただく予定である。呼びかけの手法、インセンティブ、2つのワークショップを運営するコーディネートのあり方についても早々に案を作って取組を進めたい。

事務局としては、ワークショップを開催し、環境というのはその時代に生きている人々が預かっているものだという発想のもとで、この環境をどう引き継いでいくのかを考えたり、また、将来自分たちがこんな環境で暮らしたいという夢、ストーリーのようなものを考えたりすることによって、環境政策に参加していただく動機づけにならないかと考えている。

(小幡部会長) 板倉委員御指摘のとおり、場所やコーディネーター、インセンティブの点を考慮し、ワークショップの成果の一部を主観的な評価に入れたり、分かりやすい目標を作る際の参考にしていただくということで、その成果を可能な限り計画に反映し

ていただけたらと思う。

(池垣委員) 私も何回かワークショップに参加したことがあるが、コーディネーターが専門性に走ってしまうと、聞いている方が分からなくなる。ワークショップで成果を得ようとする場合、身近な内容を取り上げて行う方が良いと思う。ワークショップをする際はこういった点も重要だと思う。

(小幡部会長) それが分かりやすい計画づくりにもつながってくる。ワークショップ等での議論をまとめたものが環境基本計画の長期的目標等に束ねられ、さらに分野別計画で具体化されるという構造にすれば、この計画としての役割を果たすことができると言えるのではないかと思う。

また、食に関する記載がないが、地産地消などについてはどうか。

(池垣委員) ごみがバイオガスに利用されていることや、食べ物を捨てないようにすることがごみの減量化につながることで、また、地産地消の仕組みなどを耳にすることが増えてはきたが、まだまだ理解はされていない。そういったことが理解されれば、将来のことも考えてもらえるようになるのではないか。これらが京都の今後の環境を良くするというのを理解してもらえるとよいと思う。

(三宅部長) ワークショップでの成果は、長期的目標や基本施策に積極的に反映していきたい。色々な意見が出ることを事務局としても期待しているが、計画本体に反映しきれないものもあると思う。それらについても、子どもたちが目指す未来像といったオプション的な利用という可能性もあるのではと考えている。いただいた意見の使い方、反映のさせ方についても御意見いただきたい。

(小幡部会長) 例えば、京プランの重点戦略に「環境にやさしい都市づくり」とあるが、「環境にやさしい」とはどういったことなのかということ、子どもたちに議論してもらえばよいと思う。

(村瀬委員) 参加者の募集の方法は。

(三宅部長) 市民しんぶん、ホームページ、教育委員会等を通じて広く周知したいと考えている。

(小山委員) 今ある基本施策5つの順番には、何か意味があるのか。一番の目玉になるようなものが上に来るべきだと思う。

(三宅部長) 順番については、スケール順と認識している。5つの数を増やすか減らすかについては、議論した上での結論であれば、いずれになっても問題ない。

(小幡部会長) 生物多様性というのも話題になっているが、そういったものも入れるかどうか、意見があれば伺いたい。

(池垣委員) この先の10年を考えるなら、今新しいと言われていることを追加していく方が、親しみや興味を持ってもらえると思う。

(小幡部会長) 京プランに「低炭素時代のものづくり産業」とあり、各分野別計画にも「グリーン産業振興ビジョン」というのがあるが、産業やものづくりについての記載が環

境基本計画にも必要なかどうかについて御意見を伺いたい。環境と経済を一緒に考えるのが時代の動きなので、産業やものづくりというのも個別項目として前面に出した方がいいかとも考えるが、いかがか。

(村瀬委員) 新たにものづくりの項目を立てるのではなく、5つの長期的目標の中に、部分的なものづくりの視点を盛り込むということではよいのではないか。

(小山委員) 先ほどの5項目の順がスケール順だとするならば、スケールごとに整理しなおして、3項目にするという選択肢もあるかと思う。また、ものづくりや生物多様性については、この3項目のどこかに入るという風にすればよいと思う。

(三宅部長) 10年前は概念として生物多様性というのが一般的でなかったもので、生活環境と自然環境という括りに分けているが、生物多様性をつなぎの概念として使うという可能性もある。今後、また意見を頂戴できればと思う。

また、計画の進捗管理についてもお伺いしたい。特に分野別計画はそれぞれ計画年限を設けて数値目標を定め、客観的なデータをもってその到達度を判断している。今回の改定に当たって、市民アンケートを実施している。今後は、アンケート調査結果に基づく主観評価を経年的に管理してはどうかと思っている。統計等に基づく客観データをおさえていき、変化が見られるものについては分野別計画で網羅できるので、その2つをもって管理してはどうかと考えている。

(小幡部会長) 主観的評価については、入れるということで進めていただく。また、82という指標の数だが、もう少し分かりやすくしつつ、減らす方向で進めていく。

ワークショップについては、コーディネートを分かりやすいものにし、主観的評価や計画の骨子に関わるようなところを議論していただいて、継続的にワークショップをしていけるようにする。

3 閉会